

飛鳥資料館 冬期企画展 「飛鳥の考古学2017」

飛鳥地域では、近年も継続的な発掘調査が続いています。小山田遺跡は、2016年度までの調査で古墳であることが確定し、牽牛子塚古墳では築造に際し、周辺の山を削り、谷を埋め立てるなど、大規模な土木工事をおこなっていたことがわかりました。「槻樹の広場」があったと考えられている飛鳥寺西方遺跡では、石組溝や掘立柱建物等多くの遺構がみつき、遺跡南部の土地利用のあり方があきらかとなってきました。飛鳥京跡苑池では、南池の東側で門や建物が確認され、池に付属する施設の様相が徐々に判明しつつあります。

また、藤原宮跡では、朝堂院朝庭の調査で、大宝元年(701)の元日朝賀の際に幢幡を立てたとみられる柱穴がみつかる等、大きな成果があがっています。さらに、藤原京右京九条二・三坊でおこなわれた調査では、藤原京期の遺構の下から、弥生時代終わりの大型円形周溝墓が発見され、前方後円墳の成立過程を考える上で新たな資料が加わりました。

今回の展示では、これらの遺跡を中心に、2015・2016年度に飛鳥藤原地域でおこなわれた発掘調査の成果を紹介します。

(飛鳥資料館 若杉 智宏)



会 期：2018年1月26日(金)～3月18日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日) ※2月4日(日)は無料入館日

開 館 時 間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

平城宮跡資料館 新春ミニ展示 「平城京の戌」

2018年の干支は戌戌。平城宮跡資料館では、来年の干支、イヌにちなんだミニ展示をおこないます。

日本列島では、イヌは少なくとも縄文時代から私たち人類とともにいたことがわかっています。いま、日本で確認されている最古のイヌは、神奈川県横須賀市夏島貝塚出土の縄文時代早期(約1万年前)のものです。

もちろん奈良時代の平城京でも、イヌは人々とともに暮らしていました。長屋王邸から出土した木簡からは、邸内で何匹ものイヌが飼われていたことがわかっています。邸内では「犬司」という犬の世話係が設けられていたほか、「御馬屋犬」と称される、馬屋番と思しき犬もいたようです。

戌戌の年は、なにごととも変わり目となる年のようです。私ども奈良文化財研究所も、夏には新しい庁舎の竣工・開庁が予定されています。さあ、変わり目のこの年に、イヌのように元気に跳ねまわりながら、活躍していきましょう。

(企画調整部 加藤 真二)



長屋王邸で飼われた犬
(早川和子さん画)

会 期：1月4日(木)～1月28日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開 館 時 間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問合せ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ 記 録

文化財担当者研修(専門研修)

- 三次元計測課程
2017年9月25日～9月29日 14名
- 保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程
2017年10月10日～10月18日 6名
- 古代・中近世瓦調査課程
2017年11月13日～11月17日 10名
- 文化財写真課程
2017年11月27日～12月7日 18名
- 報告書編集基礎課程
2017年12月7日～12月14日 20名

第9回東京講演会

2017年10月7日(土) 340名

第121回公開講演会

2017年11月11日(土) 154名

飛鳥資料館 秋期特別展

10月6日(金)～12月3日(日) 9,877名
「高松塚古墳を掘る一解明された築造方法―」

平城宮跡資料館 秋期特別展

10月14日(土)～11月26日(日) 14,841名
「地下の正倉院展―国宝 平城宮跡出土木簡―」

現地説明会等

○東大寺東塔院跡
2017年10月7日(土) 801名

その他(催し物)

○東院庭園「庭の宴」
2017年9月23日(土祝) 121名

■ 最近の本

- 『飛鳥・藤原京を読み解く 古代国家誕生の軌跡』
(株)クバプロ 2017年10月
- 『郡庁域の空間構成』 第20回古代官衙・集落
研究会報告書 (株)クバプロ 2017年12月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimuj@nabunken.go.jp
発行年月 2017年12月